
■■■ 福祉社会学会ニューズレター 第 31 号 ■■■
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.31

<http://jws-assoc.jp/>
E-mail: ws@univcoop.or.jp

***** INDEX *****

- 事務局からのお知らせとお願い
- 大会関係
- 2013年度活動方針
- 第 6 期福祉社会学会役員等一覧
- 第 2 回福祉社会学会賞 選考結果
- 第 12 回大会のお知らせ
- 『福祉社会学研究』第 10 号刊行と第 11 号の投稿募集
- 理事会報告
- 新入会員紹介

■事務局からのお知らせとお願い

● 6 月大会総会にて新役員構成が承認されました。これを受けて、学会事務局所在地が以下のように変更になりましたのでご注意ください。

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6 丁目 19-1 九州大学大学院人間環境学研究院共生社会学講座
高野和良研究室内 福祉社会学会事務局

●住所変更や Email のアドレスを変更した場合は、必ず大学生協・学会支援センター・福祉社会学会担当宛（学会メールアドレス）お知らせください。年度末に毎回十数通の不着が発生します。周辺で Newsletter を受信できていない方がいる場合は学会アドレスまでご連絡くださいますようお願いいたします。

■大会関係

【第 11 回大会】 第 11 回福祉社会学会大会が、去る 2013 年 6 月 29 日・30 日に立命館大学衣笠キャンパスにて盛況のうちに開催されました。参加者は 138 名でした。

【総会報告】 大会初日の午前中に理事会が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、2 日目午後に総会が開催されました。総会の開始にあたり武川正吾会長の挨拶に続き、鎮目真人大会実行委員長からの挨拶がありました。引き続き河野真会員（兵庫大学）が議長に選出され、議長の進行のもと報告と審議が行われました。

●報告事項・審議事項

1. 庶務・事務局 田淵庶務理事・事務局長より、学会の現況について以下の報告があった。(1)2013 年 6 月 26 日現在の会員数は 463 名である。(2)会費納入状況は 9 割を上回っている。
2. 研究委員会 三井研究副委員長より以下が報告された。(1)2012 年度は大会シンポジウムの企画を進めるとともに、研究会を 4 回開催した。(2)次期委員会への引き継ぎを完了したが、次期委員会では研究会を若手から公募する計画がある。応募の際はぜひ積極的に申し込まれたい。
3. 編集委員会 安立研究委員長より以下が報告された。(1)福祉社会学研究 10 号が刊行されたが、ペー

- ジ数が大幅増となった。(2)前期では電子会議の導入による費用節減など新しい試みに取り組んだ。(3)その他の問題などについては次期委員会に引き継ぎを行った。
4. 学会賞選考委員会 野口学会賞選考委員長より以下が報告された。(1)第2回福祉社会学会賞の選考を行い、会員及び選考委員から推薦のあった学術賞4件、奨励賞4件の候補について審査を行った結果、学術賞1件、奨励賞2件を受賞作とすることを決定した。(2)対象は以下の通りである。学術賞：須田木綿子『対人サービスの民営化：行政－営利－非営利の境界線』、東信堂、2011。奨励賞：平野寛弥「社会政策における互酬性の批判的検討」(社会学評論63巻2号、2012)、山本馨「地域福祉実践の規模論的理解 贈与類型との親和性に着目して」(福祉社会学研究8、2011)。
 5. 10周年記念事業報告 三重野担当理事より以下が報告された。(1)記念事業として中央法規より『福祉社会学ハンドブック』を刊行したので、会員の皆さまにはぜひ普及にご協力いただきたい。(2)記念シンポジウムとしてシンポジウム「福祉社会学のアジェンダを問う」を開催した。
 6. 社会学系コンソーシアム・社会政策関連学会協議会報告 社会学系コンソーシアムについて、下夷担当理事代理として田淵庶務理事より、2014年世界社会学会議に向けて本学会から提出されるメッセージをとりまとめたことが報告された。続いて社会政策関連学会協議会について、平岡担当理事より以下が報告された。(1)2012年度は若手育成問題に関する懇談会を開催し、今後は女性研究者についての状況等についての検討を行っていく。(2)シンポジウムが2013年9月28日に「雇用と社会保障におけるナショナルミニマム」というテーマで開催が予定されている。ぜひご参加いただきたい。
 7. 12年度決算の提案・監査報告 田淵庶務理事より2012年度決算案が提示され、同案に関して旅費の俟約等を通じて黒字が達成されたことを中心に説明がなされた。引き続き、三本松政之監事より、三本松政之・高橋睦子両監事による同案の監査報告が示され、承認された。
 8. 13年度活動方針の提案 田淵庶務理事より「2013年度活動方針案」が提示され、承認された。
 9. 13年度予算の提案 田淵庶務理事より2013年度予算案が提示され、2012年度とほぼ同規模の予算案であることを中心に説明がなされた。同案が承認された。
 10. 選挙管理委員会報告 西下彰俊委員長の代理で平岡理事より選挙結果について報告があった。理事外会員2名と理事2名の4名によって選挙管理委員会が構成され(西下会員、岩田美香会員、平岡理事、田淵理事)、厳正な開票作業の結果、以下10名を当選とした(50音順：秋元美世、安立清史、稲葉昭英、白波瀬佐和子、杉岡直人、須田木綿子、高野和良、田淵六郎、三井さよ、山田昌弘)。
 11. 新役員構成の提案ならびに新委員会等構成の提案 田淵庶務理事より新役員について提案がなされ、承認された。また、新理事(選出理事・推薦理事)と役割分担について報告がなされた。引き続き、三重野卓新会長による挨拶が行われ、委員会構成案について報告がなされた。
 12. 会費値上げの中止と会則変更 田淵庶務理事より、2012年12月理事会で決定された会費値上げの中止に基づく会則変更案が提案され、承認された。
 13. 第12回大会開催校の提案 田淵庶務理事より、2014年大会を東洋大学で開催することが決定したことが報告され、開催校の秋元美世新理事より挨拶があった。
 14. 第2回学会賞の授与式 武川正吾会長より受賞者に学術賞・奨励賞の授与が行われた。
- その後、田淵庶務理事が閉会を告げ、第11回大会総会はつつがなく終了しました。

■2013年度活動方針

1. 福祉社会学会は、これからも、福祉(welfare, well-being)や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第11回大会を、2013年6月に立命館大学で開催します。2014年度開催の第12回大会についても、その準備を進めていきます。
3. 機関誌『福祉社会学研究』の第11号の年度内刊行をめざして、編集作業を進めていきます。
4. 大会に加えて、国際交流も含めた多様な研究交流活動に積極的に取り組みます。昨年度は研究会を年4回開催しましたが、今年度も、若手研究者支援活動など研究会活動の活性化をはかっていきます。
5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携につとめていきます。
6. 学会誌のJST電子アーカイブへの搭載を契機に、研究成果の対外的発信をいっそう進めていきます。

7. Web や Email を活用し、事務の外部委託による効率化などによって、会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

■第6期福祉社会学会役員等一覧

役職者構成

会長	三重野卓（帝京大学）		
副会長	杉岡直人（北星学園大学）		
庶務理事	高野和良（九州大学）		
研究委員長	須田木綿子（東洋大学）		
編集委員長	白波瀬佐和子（東京大学）		
理事（50音順）	秋元美世（東洋大学）	安立清史（九州大学）	井口高志（奈良女子大学）
	稲葉昭英（首都大学東京）	岡部耕典（早稲田大学）	後藤澄江（日本福祉大学）
	白波瀬佐和子（東京大学）	杉岡直人（北星学園大学）	須田木綿子（東洋大学）
	高野和良（九州大学）	田淵六郎（上智大学）	三井さよ（法政大学）
	山田昌弘（中央大学）		
監査	松原一郎（関西大学）	牧園清子（松山大学）	
顧問	副田義也	庄司洋子	

研究委員会

委員長	須田木綿子	副委員長	岡部耕典
委員	井口高志	石橋潔（久留米大学）	菊池いづみ（日本社会事業大学）
	寺田貴美代（新潟医療福祉大学）	平野寛弥（目白大学）	森川美絵（国立保健医療科学院）

編集委員会

委員長	白波瀬佐和子	副委員長	三井さよ
委員	亀山俊郎（お茶の水女子大学）	金成恒（東京経済大学）	児島亜紀子（大阪府立大学）
	後藤澄江	田淵六郎	

社会学系コンソーシアム・評議員 秋元美世 稲葉昭英

社会政策関連学会協議会・協議員 田淵六郎 三重野卓

学会賞選考委員会

委員長	安立清史		
委員	株本千鶴（相山女学園大学）	田淵六郎	山田昌弘

事務局

事務局長 高野和良

■第2回福祉社会学会賞 選考結果

（1）選考経過

第2回目である今回の選考は、2011年1月から2012年12月の2年間に刊行された研究業績が審査対象となった。学術賞の受賞資格者はすべての会員、受賞対象は単著の著書であり、奨励賞の受賞資格者は修士課程入学後13年以内もしくは博士課程入学後11年以内の会員、受賞対象は単著の著書あるいは本学会誌または他の学会誌等に掲載された査読付の論文である。

2013年1月に推薦の受付を開始し、推薦方法などをニューズレターで告知するとともに学会HPへアップし、今回から学会HP上で推薦手続きができるようにした。2013年1月16日から2月10日までを受付期間として、会員および選考委員から推薦を受けた結果、学術賞4件、奨励賞4件の推薦があった。

これらの候補作について5人の選考委員がすべての候補作を審査したうえで、2013年5月8日に選考委員会を開催し審議した結果、以下のとおり、学術賞1件、奨励賞2件を受賞作とすることを決定した。

(2) 学術賞

・須田木綿子 『対人サービスの民営化：行政－営利－非営利の境界線』、東信堂、2011

(受賞理由)

介護保険の導入とともに対人サービスにおける多様なプロバイダーの必要性が主張されたが、その一方で、NPOのような民間非営利団体は推奨されるが、営利事業者は本来的になじまないのではないかという議論が展開されてきた。こうした「社会通念」の中で、営利事業者はどのような対人サービスを行っているのかを実証的に検討したのが本書であり、分析の結果、営利・非営利の事業体としての組織特性よりも、両者が活動する市町村自治体の特性が大きく影響していることを明らかにしている。

理論的にはメゾレベルの組織論を導入し、資源配置や供給組織などの観点で対照的な2自治体を比較分析しており、バランスがとれている。また、仮説の検証のための指標を独自に開発し、多様な調査方法を柔軟に組み合わせて目的に合致するデータを得ている点も評価できる。

本書の結論が変動過程のある時期を断面的に捉えたものかどうかは今後の研究に待つ必要があるが、それゆえに今後の研究が参照すべき知見を提示しているわけで、研究展開のスパンでも評価に値する。本書は、課題設定の独自性、理論枠組み、実証的調査、結論の意義、そして、変化の渦中にある現象の初期段階の研究であるというベースライン性、等により、福祉社会学の研究展開に貢献する著作であり、本学会学術賞に値する。

(3) 奨励賞

・平野寛弥 「社会政策における互酬性の批判的検討」、社会学評論 63 巻 2 号、239-255、2012

(受賞理由)

本論文は、資源を相互に受け渡しする行為であり、社会的関係を規定する概念としての「互酬性」について、よりマクロな社会政策的な観点から、その構造を紐解くとともに、歴史上に登場した3種類の互酬性について比較検討し、これからの新しい互酬性的政策について検討したものである。「多様な互酬性」という新しい概念については、その概念的な紹介に終わっている面もあるが、互酬性の構造、すなわち、権利と義務の関係のあり方や、相互義務の条件、時期、範囲に関して、それらを理論的に整理する仕方は明快であり、福祉社会学の今後の理論的研究に貢献するものとして評価できる。

・山本馨 「地域福祉実践の規模論的理解 贈与類型との親和性に着目して」、福祉社会学研究 8、85-104、2011

(受賞理由)

介護保険導入前後の時期から、一般に地域における福祉サービスの規模は小学校区と言われてきたが、その根拠は明確に示されてこなかった。本論文は、地域福祉実践の適切な規模を、個別地域の多様性を考慮に入れて実証的に探求しようとしたもので、課題設定のユニークさと政策面への影響の可能性において評価できる。モースの贈与論とダールの規模論から独自の概念類型(モデル)を提示し、3事例でパイロット的な調査を実施し、同一地域内においてもそれらが重層的に成立する可能性を仮説として提示している。今後の地域福祉実践研究において参照すべき研究として評価できる。

■第12回大会のお知らせ

福祉社会学会第12回大会は、2014年に東洋大学で開催されることになりました。詳細は決まり次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

■『福祉社会学研究』第10号刊行と第11号の投稿募集 第11号の投稿締切は9月10日必着です

●【第10号の刊行】 『福祉社会学研究』第10号(Journal of Welfare Sociology, No.10)が刊行されました (ISSN 1349-3337 ISBN978-4-7989-1182-3 C3036)。目次は以下のとおりです。

◆特集：ポスト 3.11 における社会理論と実践

特集「ポスト 3.11 における社会理論と実践」に寄せて一天田城介

災害ボランティア活動から見えること一村井雅清

ボランティアの制度化は〈支援〉の有り様に何をもちたか—新 雅史
震災復興支援と「支え合い」—佐藤 恵
「3.11」と「3.12」—矢部史郎
社会（科）学の啓蒙的な論調について—小泉義之
特集について—三井さよ

■自由論文

利用主体—提供主体間の相互規定を通じた社会福祉の成立—寺田貴美代
児童養護施設の職員が抱える向精神薬投与への揺らぎとジレンマ—吉田耕平
ダルクにおける薬物依存からの回復に関する社会学的考察—相良 翔
分断される養育者たち—和泉広恵
高齢者地域包括ケアにおけるネットワーク構築とその効果—宮垣 元

●【『福祉社会学研究 11』の原稿募集について】

下記要領で、『福祉社会学研究 11』の自由投稿論文を募集します。投稿資格は、本会会員に限ります。2013年度の加入者については、6月の大会時までに入会済みであることが条件となります。

1. 論文の種類、自由投稿論文 福祉社会学研究の学術論文とします。なお、投稿資格は、本会会員に限ります。
2. 掲載の可否 レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します。
3. 締め切り 2013年9月10日（火曜日）（必着）
4. 論文の分量 20,000字以内とします。スペースは字数に含めません。
5. 投稿規程、執筆要領 投稿規程、執筆要領はウェブサイト等でかならず確認してください。論文の分量が超過するなど、執筆要項が守られていない場合には、投稿論文を受け付けません。投稿は紙媒体ではなく電子ファイルで行います。投稿する場合には、ワードの文書ファイルの形式で、メールにて編集委員会事務局までお送りください。かならずファイルのバックアップを取った上で、必要に応じてパスワードを付けてください。その場合には別のメールにてパスワードをお知らせください。紙媒体の提出は一切必要ありません。
6. 自由投稿論文提出先、問い合わせ先 投稿は受領後に受領通知をお知らせします。受領通知の発行をもって、論文の投稿が成立します。投稿後1週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には、編集委員会事務局までお問い合わせください。

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 法政大学社会学部三井さよ研究室 福祉社会学会 編集委員会事務局（メールアドレス jws-henshu★l.u-tokyo.ac.jp ←★を@に変えてください）

■理事会報告

●2013年度 第1回理事会 議事録（前掲総会内容と重複する部分を一部省略）

日時：2013年6月29日 10時30分～12時30分

場所：立命館大学衣笠キャンパス清心館542室

出席者：安立、岡部、株本、鎮目、武川、田淵、中田、藤村、三重野、三井、秋元、井口、稲葉、白波瀬、杉岡、須田、高野、山田

●報告事項・審議事項

1. 第11回大会に関して：実行委員長の鎮目理事より開催・運営に関して報告があった。
2. 選挙管理委員会報告／新役員の構成について：選挙管理委員（西下彰俊委員長の代理）の田淵庶務理事より理事当選者の報告があった。引き続き、新理事及び役割分担案について原案通り承認され、総会に提案することとなった。また、新理事会より委員会構成について提案され、承認された。
3. 研究委員会報告：三井副委員長より、引継事項を含めて報告があった。
4. 編集委員会報告：鎮目副委員長より、引継事項を含めて報告があった。学会誌10号のページ数が大幅増になったことに伴い価格値上げの可能性が生じた件について、今回は値上げせずに済んだものの、今後の編集業務において注意を要するということが確認された。

5. 学会賞選考委員会報告：岡部理事より、第 2 回学会賞選考の経緯と結果について報告があった。選考において生じる経費が予算から執行しにくいという問題について今後改善を検討すべきであるという提案があった。
6. 10 周年記念事業報告：三重野委員長より報告があった。記念事業で刊行された福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブッカー現代を読み解く 98 の論点』（中央法規）は 2000 部を印刷、現在誤植の修正を行っていることが報告された。増刷になった場合の印税は、原則として学会の収入とすることを協議の上承認した。
7. 社会学系コンソーシアム報告：下夷理事の代理で田淵庶務理事より報告があった。
8. 社会政策関連学会協議会報告：平岡理事の代理で田淵庶務理事と武川会長より報告があった。
9. 13 年度活動方針案について：田淵庶務理事より原案が提案され、協議の上、総会に諮ることを承認した。
10. 会費値上げの中止と会則変更について：田淵庶務理事より、各委員会の儉約の努力、大会会計への大学からの寄付、東信堂からの売上げ還元などを通じて会費値上げを中止することになった経緯が報告され、それに伴い会費を旧会費に戻す会則変更を総会に諮ることを承認した。
11. 12 年度決算案の承認・監査結果について：田淵庶務理事より決算案と監査結果の説明があり、審議の結果決算案を承認した。
12. 生協との委託契約の継続承認：大学生協への事務委託契約の継続について、審議の結果継続することを承認した。
13. 13 年度予算案の承認について：田淵庶務理事より 2013 年度予算案の説明があり、審議の結果、総会に諮ることを承認した。
14. 総会の運営について：田淵庶務理事より総会の議事次第案が提案され、審議の結果これを承認した。
15. 次回以降の大会開催について：第 12 回大会は 2014 年 6 月に東洋大学にて開催予定であることを確認した。
16. 新規入会者の承認、退会希望者の確認、会員状況報告：田淵庶務理事より会勢報告があり、一般会員は 6 月 26 日現在で 463 名であること等が報告された。引き続き、新規入会者 17 名の承認と退会者の確認が行われた。会費未納による退会候補者については事務センターより最終的意思確認を求めることとした。
17. 次回理事会（2013 年度第 2 回）を 2013 年 12 月 21 日（土）午後に開催することを決定した。

■新入会員紹介

(Web 版では省略)

【発行・編集】 福祉社会学会事務局